

牛群検定通信 No.191

～令和7年度 牛群検定概況～

1 305日乳量

令和7年の乳用牛群能力検定成績速報がまとまりましたので、その概況をお知らせします。令和7年の305日乳量は、9,889kgと前年度よりも大幅に増加しました。繁殖成績は、分娩間隔424日（中央値400日）と昨年より4日短縮しました。

都府県	305日乳量	9,862kg	対前年+141kg
北海道	305日乳量	9,901kg	対前年+192kg
全国	305日乳量	9,889kg	対前年+176kg

2 自動搾乳

近年の自動搾乳の普及は著しいものがあります。乳量は2回搾乳よりも格段に増加します。

都府県	305日乳量	10,956kg	対前年+229kg
北海道	305日乳量	11,813kg	対前年+254kg
全国	305日乳量	11,691kg	対前年+252kg

3 月別検定成績

都府県と北海道の泌乳の季節パターンは大きく異なり、都府県は特に夏季の暑熱の影響を受け大きく減少します。7年もこのパターンは変わりませんが、乳量に関しては、都府県と北海道ともに年間を通して例年の実績を上回る結果となりました。乳成分率においても例年をやや上回り推移しています。このことは乳量を大きく伸ばしたにもかかわらず、乳成分率も微増したことになります。

4 分娩間隔

分娩間隔は全国で424日と昨年から4日短縮しました。これは過去最も長期化した平成23年の438日からみると14日間もの短縮です。直近、4カ年は北海道と都府県ともに短縮傾向となっています。また、305日乳量は大幅に増加したにもかかわらず、分娩間隔が短縮したことになります。

都府県	分娩間隔	441日	対前年－1日
北海道	分娩間隔	417日	対前年－5日
全 国	分娩間隔	424日	対前年－4日

5 性 比

北海道ではメス産子が60.1%、都府県では58.1%でした。平成25～26年ごろまではメス産子比率がオスより低くなっていましたが、性選別精液の利用が逆転し大幅に増加していることがうかがえます。

都府県	性比メス	58.1%	対前年＋1.6%
北海道	性比メス	60.1%	対前年＋1.4%

(相原)